

T T C提案山行実施記録表 (2018年1月6日 報告者 H.H)

1. 山行名	御正体山			
2. 実施日	平成30年1月6日(土)	日帰	マイクロバス利用	
3. 天候/参加人数	晴れ	レベル ★★★	参加者：13名(男8/女5名)	
4. パーティストッフ	省略			
5. 参加メンバー	省略			
6. 費用 5,400円/人	参加費：一人@5,400円×13名=70,200円 (内訳) 交通費 57,208円(計画書通り)、新年会等 12,360円(入浴料@720×13、個室3,000円)、カンパ金 632円			
7. 所要時間		歩行時間	休憩時間	行動時間
	ガイドブック	5:30		
	計 画	6:10	1:25	7:35
	実 行	4:25	1:30	5:55

実行コースタイム記録									
<p style="margin: 0;">元ヨカド前 == 及川中原 == 道志道の駅 == (御正橋) == 別荘地 — 30 — 登山口 — 35 6:10 6:25 6:25 7:40 7:50 8:00 8:00 8:05 8:25 8:55 (休15)</p> <p style="margin: 0;">— 白井平分岐 — 50 — (昼食) 御正体山 — 40 — 前ノ岳 — 20 — 中ノ岳 — 30 (鉄塔下) 15 — 石割山分岐 — 30 9:45 (休10) 10:45 11:25 12:05 (休5) 12:30 (休5) 13:05 (休15) 13:35</p> <p style="margin: 0;">— 山伏峠 — 10 — 山伏 TN 道志口 — 5 — 山伏峠バス停前 == 紅富士の湯 == 山中湖 IC == 14:05 14:15 14:20 14:25 14:50 18:20 18:20</p> <p style="margin: 0;">= 御殿場 IC == 鮎沢PA == 元ヨカド前 18:50 19:00 19:10 20:15</p>									

コースの概要、特記事項、反省事項等

年明けの平成30年新春の新年山行は、厳しい寒さではあったが、快晴の天気の中、無事、山行、新年会とも実施することができた。本コースは、過去2回ほど同じようなルートで実施した経緯があり、今回も前回とほぼ同じルートをたどることとした。

コースは積雪を考慮した時間配分となっていたが、昨年末から降水量が少ない中、積雪も全くなかったため、全体的に予定より早くなった。前日の金曜日、雨か雪が降る予報であったが、少雨の天気傾向を反映するように予報が降らない予報に変わり、果たして雨や雪が降ることはなかった。実際、山頂に薄っすらと雪を見ただけで、雪の全くない状態での山行となった。下山後、入浴と新年会を開催することとなっており、予定が遅れば、当然、入浴・新年会を割愛することもあり得たので、積雪がなかったことは、幸いであった。

早朝6時10分、メンバーを乗せたマイクロバスは、道志へ向けて出発した。途中、道の駅でトイレ休憩を済ませ、予定よりも20分早く午前8時に御正橋(白井平)へ着いた。林道に雪が積もっていれば、ここから歩く計画だったが、まったく雪がなかったため、登山口へとつながる林道を進んでもらい、別荘地付近でバスを降りた。ここまで来てもらえれば、時間に余裕ができたものの、バスは、ロングボディのため、思うようにUターンができず、少し道に戻るなどしてUターンするのに15分ほど掛かってしまった。

OKさんの声掛けによる準備運動のち、8時25分出発した。林道を経て、しばらく沢を詰めるように登山道を進み、1度渡渉して右岸沿いの登山道に取り付いた。ここまでの登山道は、道がはっきりとせず、ピンク色のリボンを頼りに沢沿いに進んでも、それが正規のコース道かよくわからなかったが、30分後に「登山道」の標識を確認してここが取付きだと分かった。(恐らく、どのコースをたどっても、若干難易度の差はあれ、この取付きに出るものと思われた。)

ここからは、ほぼ直線的に上る登山道が続き、所々急登はあるものの、比較的登りやすいと思った。登山道には四合目、五合目などの石標が置かれ、登るにつれて木洩れ日も差し込むようになり、会話も弾んで快適に進んだ。途中、2回ほど衣服の調節や立ち休憩の小休止を取り、9時42分、白井平分岐に着いた。分岐付近は、やや広くなっており、休憩するにはちょうど良いスペースであった。

10分ほど休んだのち、緩やかな斜面をしばらく進むと、本格的な急登となったので、ペースを緩めてゆっくりと進むこととした。目を遠方に向けてと、遠く箱根の大涌谷や筑波山を樹林から垣間見ることができ、10時45分、予定より1時間も早く御正体山山頂に着いた。

山頂には、山名の由来となっている「御正体権現」を祭る小社があり、その周囲に雪がうっすらと残っており、風は無くよく晴れていたが、木陰のベンチは非常に寒く、防寒着を着込む必要があった。ミズナラ、モミなどの自然林に囲まれた山頂の展望は悪く、都留市側から登ってきたというハイカーも2、3人と少なかった。このため、昼食を早々に済ませ、11時25分、下山を開始した。

緩やかな下り坂の平坦な道がしばらく続き、風も出てきて再び寒くなる中、SKさんの「富士山だ！」の声で、ジグザグのブルドーザー道が見える富士を樹林から垣間見た。今年の富士山は、やや冠雪が少ないように感じた。その後、踏み跡のはっきりついた登山道を、緩急を繰り返しながら下へ下へと下って行き、ふと後ろを振り返ればどんと聳えている御正体山が見え、ずいぶんと下ってきたことがよく分かった。

30分後、ようやく前方に、前ノ岳に続く馬の背に着き、登り返し始めた時に1人の女性ハイカーと出会った。12時3分、前ノ岳に到着したが、山頂は、山名標とベンチがあるだけで展望は望めなかった。その後も天然林の樹林帯の中を進むが、落ち葉が積もる登山道は緩やかで、木洩れ日の中、丹沢山塊、富士山、周囲の山々を望みながら12時31分、中ノ岳に到着。さらに同じような緩やかな尾根道が続き、小高い山を登りきると突然視界が開けるや否や、目の前に大きな鉄塔が現れ、13時5分、本日、最高のビューポイントに出た。鉄塔付近の樹木はきれいに切り取られ、最高の視界を確保していた。左側から蛭ヶ岳、菰釣山などの丹沢の山々、富士山、杓子山などの山々を一望に見渡すことができた。

寒さを忘れ、メンバーのそれぞれが思い思いに景色を楽しみ、写真を撮っていた。15分ほど休んでから山伏峠に向かって出発し、石割山分岐を経て、14時15分、ゴールの山伏峠（道志みち）に出た。この間の登山道は、指し導標もしっかりと設置され、迷うことはないが、石割山分岐は、尾根から大分降りた地点にあった。また、同分岐からの道にはロープのある急斜面が2、3か所あり、クマザサが生い茂っている個所もあって、降雨後や夏場の場合は、やや難儀を強いられる道になると思った。

14時15分、無事、山伏トンネルの道志口側にたどり着き、トンネルを抜け、マイクロバスに乗り込んだ。途中、少し結氷している山中湖畔の富士山がよく見えるビュースポット（駐車場）で写真を撮りながら、14時50分、紅富士の湯に到着した。その後、温泉で汗を流し、15時半から約3時間、新年会を楽しんだ。

帰路は、東名高速が事故渋滞でやや混んでいたが、バスが止まることはほとんどなく、全員無事、厚木に帰ることができた。

(反省点)

- できるだけ登山口に近いところまでバスで向かってもらおうとして、Uターンが可能な広場まで進んでもらったが、バスがロングボディで、その広場ではなかなかUターンが難しかった。このため、道路を使ってUターンできる場所まで戻ることとなり、かえって時間がかかってしまった。Uターンには、道路状況を考慮し、余裕をもって場所を選ぶ必要があることを痛感した。
- 急登が続く区間は、考えている以上に歩行ペースを遅らせる必要があり、適宜振り返って、間隔が大きく開くようであれば、間隔が開かないようなペース配分が必要であると思った。
- 全山的に雪が全くなかったこと、沢沿いの登山道に霜柱はあったものの、少雨傾向のため道がぬかっていたことなどが幸いして、予定よりもだいぶ早く登ることができた。
- 初めてCLを任され、至らない点は多々あったと思いますが、皆様のおかげで無事実施することができました。ご協力ありがとうございました。

<以上>